

やさしい日本語の作り方

■はさみの法則

「やさしい日本語」で話す際には「はさみの法則」を意識しましょう。

- はっきりと
- さいごまで
- みじかく話す

<窓口対応>

例) 恐れ入りますが、番号でお呼びしますのでおかけになってお待ちください。
⇒ その椅子に座って待っていてください。この番号を呼んだら、来てください。
番号は、あそこに出ます。

- × 恐れ入りますが ⇒ クッション言葉は使わない
- × おかけになって ⇒ 「座って」など簡単な単語を使う
- × 長い文 ⇒ 複数に区切る (みじかく話す)

<電話対応>

例) 折り返しお電話いたしますので、ご希望のお日にちとお時間をお教えいただけますか。
⇒ 調べてからあなたに電話をします。電話をとれる日にちと時間を教えてください。

- × 折り返し ⇒ 「調べてから～」など何をするのか明確にする
- × お教えいただけますか ⇒ 教えてください
- × 長い文 ⇒ 複数に区切る (みじかく話す)

■「やさしい日本語」で書く・話すためのルール

●書き方の手順

1. 情報の取捨選択（相手の目線で情報を整理する）
2. わかりやすい文章に校正する
3. 文をやさしく書き換える

チェックポイント（文章）

- | | |
|--|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1文を短くする | <input type="checkbox"/> 二重否定を使わない |
| <input type="checkbox"/> 複数のことを伝えるときは箇条書きにする | × できないことはない |
| <input type="checkbox"/> 簡単な単語を使う | <input type="checkbox"/> 曖昧表現は避ける |
| ・ 漢字は読み仮名をふる | × ～が必要となる場合があります。 |
| ・ 略語は使わない | <input type="checkbox"/> 和暦→西暦 |
| ・ ローマ字は使わない | 例) 令和4年 ⇒ 2022年 |
| ・ 擬音語擬態語はなるべく使わない | |

●話し方の手順

1. 見た目判断せず、まずは日本語で対応する
2. 相手の反応を見たり、確認をとったりして通じているかどうか判断する
3. 通じない場合には、下記チェックポイントを参考に簡単な表現に言い換えていく
4. 困難な場合は、多言語通訳機や翻訳アプリ、通訳サービスを利用する

チェックポイント（会話） ※基本は文章作成時と変わりません

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> ゆっくりはっきり発音する |
| <input type="checkbox"/> 一文を短くし、わかりやすくする |
| 例) 「○○であり、▲▲のため、・・・」 ⇒ 「○○です。▲▲ですから、・・・」 |
| <input type="checkbox"/> 主語と述語を明確にする |
| 例) 明日はお休みです。 ⇒ 明日、市役所はお休みです。 |
| <input type="checkbox"/> 複雑な敬語は使わず、クッション言葉を省く |
| × 恐れ入りますが、申し訳ございませんが・・・ |
| 例) 私どもが明日（みょうにち）、伺います。 ⇒ 私たちが、明日（あした）行きます。 |
| <input type="checkbox"/> 二重否定は避ける |
| × できないことはない |
| <input type="checkbox"/> あいまいな表現は避け、明確に言い切る |
| 例) 提出しましょう。 ⇒ 出してください。 |